

膜生物学・医学学術講演会

日時：平成27年11月20日（金） 18：00～

場所：A講義室（臨床研究棟4階）

神経芽腫の多施設臨床試験と トランスレーショナルリサーチ

田尻達郎 教授

京都府立医科大学小児外科



我が国における神経芽腫全体を包括し、国際的に発信できる臨床研究を目指して、2006年に日本神経芽腫スタディグループ（JNBSG）が発足した。国際的には、現在、International Neuroblastoma Risk Group (INRG)において治療前の画像評価によるIDRF（Image Defined Risk Factors）に基づいた臨床病期(INRGSS)、及び年齢やMYCN遺伝子増幅に11q LOHを加えたリスク分類に従った治療戦略が構築されつつある。昨年、日本の小児がんの臨床研究グループは、日本小児がん研究グループ(JCCG)として一つにまとまり、JNBSGもJCCG神経芽腫委員会（JNBSG）として新たなスタートを切った。

今回、JNBSGにおける多施設臨床試験の現況と今後の展開をお話するとともに、神経芽腫の詳細なリスク分類を目指して、私自身が、これまで行ってきたトランスレーショナルリサーチをご紹介します。

【コーディネーター】神経分化・再生分野 教授 榎本秀樹

【主催】膜生物学・医学教育研究センター【連絡先】研究支援課研究企画係 Tel:5195
E-mail:k9shien@med.kobe-u.ac.jp

先端医学トピックスの講義としても開講します